グループワークを活用した就職活動支援に有効なキャリア教育

The Career Education that is Effective for Job Hunting Support Using the Group Work

吉 田 晋^{※1}
Susumu YOSHIDA

福 田 耕 治^{※1}
Koji FUKUDA

In recent years, besides the severe employment situation facing companies, as well as students, job hunting has become harder due to the students lower ability of self-analysis and lack of working by themselves. For these reason, the importance of career education at Universities and Colleges has increased. The career support class has been held once a week at Anan National College of Technology as one of the various career formation programs for fourth year students before they begin job hunting. Furthermore, the college has adopted the suggestion from a company engineer and is working to improve the training class. The author suggests the career class contents support the job hunting of the student, using experience as having been a company engineer and recruitment staff. In this report, we suggest class content which emphasizes group work and enhances important abilities such as individual critical thinking for the job hunting students. We held a group work class that was suggested as a weekly career support class of the latter period for fourth year students. The questionnaire survey shows the class content of group work we implemented is very effective.

Keywords : Career Education, Group Work , Career Guidance

キーワード：キャリア教育，グループワーク，進路指導

1. はじめに

バブル崩壊後，日本経済は長期の経済停滞に陥り，雇用情勢は厳しい状況が続いている．企業の新卒採用は，即戦力になりうる人材を厳選して採用するようになってきている．一方，このような厳しい採用状況の中，学生はしっかりと自己分析し，自分が働きたい企業をよく考えて就職活動する必要がある．しかし，就職活動を始める学生の自己分析力や，将来の仕事について自ら考える力の不足により就職活動をさらに厳しくしていると考えられる．このことから，高等教育においてキャリア教育の重要性はさらに高まっている¹⁾．しかし，企業での就労経験が少ない高等教育機関の教員にとって実践的なキャリア教育を行うことは難しく，学外の組織による実践的なキャリア教育を取り入れる試みも行われている²⁾．一般の大学生と比べて2歳若く進路を考える必要がある高等専門学校においては，以前から実践的なキャリア教育を実施している³⁾．

阿南工業高等専門学校（以下，阿南高専）では，キ

ャリア教育として高専1～3年の低学年から年4回のキャリア補講，4年生ではインターンシップと週1回のキャリア補講，そして高専3年生から長期休業を利用して合計10週間の就業をコーオプ教育⁴⁾として実施している．さらに，企業に求められる実践的なエンジニアの養成に有効な実験・実習改善を目指して，企業技術者からの提案を積極的に取り入れて実習の改善に取り組んでいる⁵⁾．このように色々なキャリア教育が実施されているが，就職活動支援として定期的な授業が実施されている例は少ない．筆者は，自らの企業技術者経験や技術者採用担当の経験を活かし，学生の就職活動において重要な自ら考える力と，自分の考えを伝えるコミュニケーション力を高めるキャリア支援授業を提案している⁶⁾．本論では，学生の就職活動支援のためのグループワークを活用したキャリア授業内容を提案し，受講学生の受講アンケート結果より効果を検証している．今後の改善案と合わせて報告する．

2. 近年の企業技術者に求められる能力

企業技術者に求められる技術は，年を追うごとに高度化・複雑化し，それに対応するための専門分野の細分化が進んでいる．製品の高度化はハードウェアとソ

2014年1月29日受付

※1 阿南工業高等専門学校

表1 企業が人材に求めている能力

考える力	自ら考える力、考え抜く力 現状に問題意識を持つ力 解決に向けたプロセスを明らかにする力
伝える力	自分の意見を伝える力 他人に働きかけ巻き込む力

フトウエアの融合が不可欠となっている。そういったなかで技術者の仕事の進め方は、チームプロジェクトとして行われ、部署内はもちろん社内の複数の部署が連携するばかりでなく、社外の技術者とも協力して進める必要がある。一方で、学生の立場に立てば、高度技術の発展と経済成長により、小さい時から身の回りに便利なハイテク製品があふれており、自ら創意工夫をする機会が少なくなっている。また、インターネット検索によりすぐに答えを知ることができることで、自ら考え抜いてよりよい答えに近づいていく喜びを実感しづらくなっている。さらにモバイル端末の進歩により対面コミュニケーション力を鍛える機会も減少している。

このような企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきたと経済産業省が2006年から提唱している⁷⁾。

これらのことから、筆者は、企業が今意識して求めているのは表1のような考える力と伝える力がある人材と考える。

3. キャリア支援授業の提案と実施

3.1 キャリア支援授業の提案

阿南高専では、4年生の夏期休暇を利用して、企業へのインターンシップを実施している。また年度末の就職活動への準備も行っている。これらの取り組みにおいて、教員が学生を支援する言わばロングホームルームに近い位置づけで週1回45分のキャリア補講という授業時間が設けられている。前期は、夏期インターンシップに向けての情報提供やエントリー準備、後期前半はインターンシップ報告会、後期後半は年度末の就職活動に向けての情報提供などを行っていた。ちなみにインターンシップは選択単位として認定されているが、キャリア補講授業は単位認定されていない。4年

生後期は、年末から始まる就職活動に向けて準備をしていく大事な時間である。この時期に有効なキャリア授業が実施されていなかった。そこで、4年生後期のキャリア補講の時間を使って、就職活動支援となるような授業カリキュラムを作成し実施することとした。

就職活動において、学生は、自己分析を始めながら自分がやりたい仕事の業種や業界を考えていく必要がある。希望する企業調査を行い、履歴書の作成や面接対策を考えながらさらに自己分析を深めていく。しかし、学生は自分のやりたい仕事や自分に合った仕事を自ら考えること、それを他者に伝えて自己分析を深めていくことに苦勞している。これらは講義で知識として教えることだけでは身につかない。そこで、図1のようにグループワークを取り入れることで、グループメンバーと一緒に考えること、自分の考えを伝えて話合うことで、自己分析に繋がるようなキャリア授業を考えた。

この授業では、考えるためのツールや手法を紹介し、考える演習を通してそれらの力を高め、自らをアピールできるようになることを目的としている。自ら考えることに慣れていない学生にとって、「自己分析して自分に合った企業を選び、自己アピールをする」ということは、非常にハードルの高い課題である。それは、通常の授業課題のように他の学生の答えを真似ることもできない。難しい課題を提示されると考えることをあきらめてしまう学生も多い。そこで簡単なテーマをグループで考えることからステップアップしていくアプローチとした。

グループワークを実施する場合、そのワークテーマの選定と進め方が非常に重要となる。グループワークを含めた授業の進め方として次の4つのフェーズを設け、表2のように授業1～授業14（1回45分の授業時間）を計画した。

1) フェーズ(1) 考える手法を体験する。(4回)

アイスブレイクの位置づけで、考えやすいテーマをまず個人で考えてからグループで沢山の意見を出すという練習を目的とする。ブレインストーミングやマインドマップの手法を体験する。

2) フェーズ(2) グループディスカッションによる新しいアイデア創出を体験する。(3回)

グループディスカッションに慣れたところで、自分の興味のあるテーマについて、グループでよりよいアイデアを作り上げる機会を設ける。自分が何に興味があるか気付くきっかけにもなる。

3) フェーズ(3) 自己アピールを考える。(5回)

エントリーシートや面接に向けて、自分の長所や高専で成長した点について考え、グループ内で発表することで、自己アピール力をつけていく。

4) フェーズ(4) 面接対応の練習。(2回)

就職活動がスタートする時期になるため、実践的

図1 キャリア授業へのグループワーク導入

表2 キャリア支援授業計画

フェーズ(1)	1. まず意見を出してみよう 「日本の良いところ」を個人とグループで考える。たくさん意見を出す。
	2. グループ内の役割制導入（進行役、タイムキーパー、書記、発表役等） 「高専の特徴として良いところ」を個人とグループで考える。
	3. ブレインストーミング手法、KJ法 さらに良くしたい「阿南高専の良いところ」を決めて「さらに良くするにはどうしたらいいか？」をブレインストーミングKJ法を使ってグループで考える。
	4. マインドマップ手法 「自分たちが提案する新しいパソコンの使い方」をマインドマップを使ってグループで考える。
フェーズ(2)	5. 「好きな商品で、人に勧めたいと思う商品（サービス）を考える」 グループで考えた後、自分の案を決める。
	6. 「みんなに勧めたい商品（サービス）をアピールする宣伝文句を考える」 前回のテーマ別のグループでアイデアを練り上げる。
	7. 「今までにない新しい商品（サービス）を考え、アピールする宣伝文句を考える」 前回までの同じグループで、新しいアイデアの創出にチャレンジする。
フェーズ(3)	8. 「自己紹介するとき必ず紹介したい項目」を考える 正式な場や、初めて会う人たちの場で、自己アピールを目的とした自己紹介において必ず紹介したい項目として、どんなものがあるか考えてみよう。
	9. 「自己紹介内容を作ってみよう」 正式な場や初めて会う人たちの場で、自己アピールを目的とした自己紹介内容を作ってグループ内発表。グループメンバーからアドバイスをもらう。
	10. 「就職先をどのように考えていますか」 就職先をどのように考えてゆけばいいかについて講義。
	11. 「高専で自分が成長したこと」を話す 就職面接を想定し、高専で自分が成長したエピソードを含んだ自己紹介パートを作ってグループ内発表。グループメンバーからアドバイスをもらう。
	12. 就職先を考える上での「高専で一番熱中したもの」を話す 就職先を考えていく上で、高専の学校活動で自分が一番熱中できたエピソードを思い出して、ストーリーを作って、グループ内で話し合ってみよう。
フェーズ(4)	13. 「面接への対応」就職活動～面接対応についての講義。
	14. 「面接時の自己アピール」面接練習 就職面接、進学面接を想定して、高専の4年間で熱中した・成長したエピソードを含んだ自己アピールを作ってみよう。グループ内で、面接官の役割を演じてみることで、面接官の目線や評価ポイントを理解してみよう。

な面接対応講義とグループ内での面接練習を行う。

このグループワーク授業で一貫して学生に求める受講姿勢は、ブレインストーミングの考え方を基本にした次の5つの内容である。

- 1) 良いところのみを発言する。（悪いところや批判的な意見は言わない。）
- 2) 他人の意見を批判してはいけない。（批判があるとアイデアが出にくくなる。）
- 3) 発言者の意見に対して、必ず良いところを見出すようにする。
- 4) 質より量、できるだけ多くのアイデアを出す。
- 5) 質よりスピード、時間をかけて最善のアイデアを考えるより、短い時間でアイデアのきっかけだけでも出す。

これらは、グループワークをするワークシートの最初に毎回プリントして繰り返し意識してもらうようにした。企業で新たなアイデアをディスカッションするときは、これらの意識を共有して実施されている。

一般に日本人は、自分の発言を否定されることを恐れて、発言を控える傾向があると言われている。グループワークを行うとき意見を言いやすい環境を作るとは重要である。さらに今回は、意見を聞く立場の人にも、他人の意見の中で良いところを見いだす課題を持たせた。このことで、何か発言をすると良い反応が返ってくるという雰囲気が生まれ、発言しやすくなる。また、良いところを見つけることは難しい課題で、そのトレーニングにもなり、自分の長所を見いだすときにも役立つと考えた。

3.2 キャリア補講の実施

表2に示すキャリア補講の内容を、筆者らが主体となって、制御情報工学科4年生（43名のクラス）の後期に実施した。グループワークは4～5名をひとつのグループとし、毎回ランダムにグループ分けを行った。進行役、書記などの役割分担をグループ内で自主的に決めてもらい、なるべく異なる役割を経験してもらうようにした。

フェーズ(1)では、グループで意見を出す手法を体験してもらうことを目的として簡単なテーマで取り組んでもらった。フェーズ(1)が終了した際、学生のコメントから、学生達はブレインストーミングやマインドマップを使ってグループで考えることに慣れてきている手応えが感じられた。授業4で実施した「新しいPCの使い方の提案」におけるマインドマップを使ったディスカッション時に作成されたマインドマップの一つが図2である。15分と短い時間で活発にアイデアが出ている様子が分かる。

フェーズ(2)では、自分の興味ある製品や分野の同じメンバーがひとつのグループとなって、グループで考えることで、よりよいアイデアを創出することにチャレンジしてもらった。単にアイデアを多く出すだけでなく、結果や成果を求めた。授業5で各自の「好きな商品で、人に勧めたいと思う商品、サービス」を考えてもらいグループ内で各自の意見を紹介した後で、自分で一番勧めたいと思う商品とサービスを考えてもらうことを実施。授業6は、その結果からよく似たテーマを選んでいる人たちでグループを作り「1分間の勧めたい商品のアピール内容」を各グループで考えてもらい、最後に1分間のプレゼンをしてもらった。手順は次の通り。

- 1) 製品テーマごとに4～5人のグループを作る。進行役、タイムキーパー、書記、発表者を決める。
- 2) 最初の3分間で、グループで「みんなに勧めたい商品（サービス）」を決める。
- 3) 15分間を使って、マインドマップやブレインストーミングを使って、商品（サービス）アピール文句を考える。
- 4) 各グループの発表者が前に出て、お勧め商品を1分間アピールする。
- 5) 発表グループ以外の方は、他グループの商品アピールで良かったところをメモして提出する。

各発表内容は、アピール内容のアイデアも良かったし、発表者のパフォーマンスも非常に個性豊かで、力

強く、興味深い発表会となった。授業1～授業5まで、15分程度の限られた時間の中で、グループで考える演習を学生達が経験してきて、授業6はテーマも前の回と関連があり、同じテーマの少人数（2名～5名）であったことから、活発な発言とスムーズに話しがまとまるグループが多かった。また、マインドマップやカードを使ったアイデア出しなど、フェーズ(1)の4回で経験したツールをうまく使ってアイデアをまとめることができていた。授業7では、「みんなに勧めたい今までに無い新しい商品（サービス）をアピールする宣伝文句を考える」を実施し、授業6同様、同じグループメンバーで考え発表してもらった。これは、自分の興味のある商品分野において、未来の新商品を考えることは、学生が就職先を考えるきっかけになってもらえると考えたテーマである。

フェーズ(3)では、自己アピールを考えるテーマを設けて、自分の得意な分野や長所を再認識するとともに、自己アピールする演習となるようにした。何をアピールしてよいか分からないという学生が多かったため、学生グループでのゲーム感覚からスタートした。授業8では、「自己紹介するとき必ず紹介したい項目」として、正式な場や、初めて会う人たちの場で、自己アピールを目的とした自己紹介において必ず紹介したい項目を考えもらった。まず、各自で考えた後、グループに分かれてグループワークで、グループ意見にしてもらいその結果を発表してもらった。自己紹介の内容そのものを考えるのではなく、項目だけを考えるワークにも関わらず、最初の各自で考える時間では項目が3つ以上浮かばなかった学生が十数人いた。自己紹介するという機会がほとんどなく、自己アピールする経験やトレーニングが不足していると感じた実習だった。その時のグループディスカッションの様子を図3に示す。

授業 9 は、自分の長所を 2 つ以上含めた自己紹介内容を考えるテーマで次のように実施した。

図3 グループディスカッションの様子

- 1) 最初8分間、各自で長所を2つ以上含めた自己紹介の項目とその内容の概要を書き出し、各項目の肉付けや話す内容を整理してもらい、
- 2) 4～5人のグループを作って、20分間（一人3分以内）を使って、各自の自己紹介内容を、グループ内で発表してもらい、
- 3) グループメンバーは、発表した人の紹介内容で、良かったところや、追加した方が良くと思う長所等のその人のアピールポイントをメモして発表者に伝えてもらった。

各自では自分の長所が思い浮かばない学生が多く見られた。グループ内でメンバーの自己アピールを聞いたり、グループメンバーの助けをもらいながら、少しずつ考えられるようになりつつあるという状況だった。これらの実習は、就職活動が本格化する前の段階で、比較的余裕のあるタイミングで実施することで、学生もじっくりと自分のアピールポイントを考える機会となったと考えている。

授業10は、筆者の就職時の経験や企業人経験からどのように就職先を考えていけば良いかについて、アドバイスする講義を行った。授業11、授業12では、履歴書や面接時に自己アピールする定番の「高専で自分が成長したこと」と、「高専生活で一番熱中したもの」を考えるテーマで、グループ内発表を実施した。これらのテーマは、ほとんどの学生にとって非常に難しいものだったが、履歴書や面接でよく問われるテーマであるため、しっかりと考えていく必要がある。自分一人ではなかなか考えられない内容であるが、クラスメートとのグループ内発表を行うことで、メンバーの発表やアドバイスが参考となった様子であった。

フェーズ(4)は、既に合同企業説明会などに参加し始めた頃の授業であったため、学生の意識も高い状態での授業となった。授業13は、面接への対応について筆者の企業での採用面接経験を活かして、採用側が学生の何を見ているかを中心に面接対応の講義を行った。最後の授業14では、グループ内で面接官と面接者に分かれて模擬面接を実施し、面接練習とともに、面接官の目線を体験してもらうグループワークを実施した。面接官役は持ち回りで、採点項目と質問リストを使って面接を実施してもらった。学生は面接官の立場を経験することで、面接時に注意すべきことを実感できたと、好評であった。

4. アンケート結果

4.1 授業期間中のアンケート結果

フェーズ(3)を終えた時点で、受講した学生にアンケートを実施した。フェーズ(3)までの授業で成長できたと思う項目を複数選択可で選んでもらった結果を図4に示している。「与えられた課題に対して、短時間で、何らかの自分の答を考えることができる」、「相手の話を素直に聞くことができる」

図4 成長できたと思う項目

話を素直に聞くことができる」、「グループメンバーと話し合うことで、自分個人の意見に対してよりよい意見を見いだすことができる」、「KJ法やマインドマップを使ってグループでアイデアや意見をまとめていくことができる」、「相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる」項目に効果のある実習であったと言える。

この授業を受ける前、グループディスカッションを苦手と思っていた学生の割合は、やや苦手を合わせるとほぼ半数いた。また、「この授業でグループディスカッションへの抵抗感が少なくなったと思うか」の問いも、半数近くがそう思うと回答している。「他人の意見を聞いて、自分の意見を増やしたり、高めたりできるようになったと思うか」との問いにも、図5のaに示すように半数がそう思うと回答している。

表3に、自由回答に書かれた内容の一覧を示す。受講した学生にとって、グループディスカッションを繰り返したことが良い経験になっている。

4.2 進路確定後のアンケート結果

キャリア支援補講授業の成果は、実際の就職活動や進学活動にどれだけ効果があったかを検証していく必要がある。4年後期に今回のキャリア補講を実施した学生が進路確定した5年生の卒業前にアンケートを実施した。そのアンケート結果を図5のb～dと図6に示す。図5のb～dに示すように、キャリア補講授業が進路を考える上で効果はあったと思うかとの問いに、58%の学生が「効果があった」と回答している。また、エントリーシートを書くのに効果はあったかとの問いには、72%の学生が「効果があった」と回答している。面接対策に効果があったと思うかとの問いには、58%の学生が「効果があった」と回答している。これらのことから、今回実施したキャリア補講の授業が、実際

図5 学生アンケート結果

の進路を決めていく活動の中で一定の効果のある授業であったと言える。

図6は、就職・進路活動において効果が少なからずあったと思うキャリア補講授業の項目を回答してもらった結果を示している。この結果から、後半の実践的な自己紹介をテーマとしたフェーズ(3)と面接対応をテーマとしたフェーズ(4)の効果が大きく、前半はあまり効果を感じなかった結果となっている。

以上のアンケート結果から、今回の授業設計時に期待した成果が得られていると考えられる。授業設計通り前半は、就職・進路活動を意識させずに考えることやグループワークに慣れるフェーズ(1)を、学生が経験したことで、後半の就職・進路活動に実践的な授業内容が、学生に効果的に伝わった結果と考えられる。自由記述の回答では、「企業での経験談、先輩の話を聞きたい」、「先輩方がなぜこの職にしたかを聞きたい」、「面接練習をもっと多く」という要望や、「進路を決定する

上では役に立たなかったが、実用的なノウハウをよく知れたので実用性のある内容にすれば良いと思う」のような意見があった。

5. 今後の改善点

今回実施したキャリア補講授業が、就職・進路活動において一定の効果をあげることができたが、今後より効果を上げていくために次の点を改善していく予定である。

- 1) 就職先を考える上で夏期休暇期間を利用したインターンシップは重要となる。インターンシップ先を考える前期から提案する授業内容を取り入れる。
- 2) 自己アピールに重要な「高専で自分が成長したこと」「高専で一番熱中したもの」が浮かばずに苦勞する学生が多く、4年生の年度末の時点では手遅れ感

表3 授業期間中の学生アンケート自由記述内容

グループディスカッションの進め方がある程度分かった
もっと学生が話しやすい旬な内容だったりすると、もっとアイデアがでるかもしれないと思った
グループディスカッションをすることで意見交換の仕方が分かった
グループワークの経験が積めてよかった
もっとコミュニケーション能力を伸ばさなければならぬということが分かった
グループワークなので、普段あまり話をしない人とでも話す機会があったので良かったと思う
発表が得意になったと思います
問題を見直すことによって、アイデアなどよく考えられること
色々な人の色々な長所を知り取り入れることができた
ディスカッションするのはとても良い経験になりました

図6 就職進路活動において効果があったと思う項目

があった。4年生の間に成長を意識して学生生活に取り組んでもらえるよう、これらのテーマの授業を早い時期に計画する。

3) 学生から要望のあった面接対策や面接指導の時間を増やす。

6. まとめ

就職活動を始める直前の高専4年生後期の学生を対象として、グループワークを活用したキャリア支援授業内容を提案し授業を実施した。提案した授業内容は、次の4つのフェーズからなり、グループワークを取り入れた実習形式で実施した。

- (1) フェーズ(1) 考える手法を体験する。
- (2) フェーズ(2) グループディスカッションによる新しいアイデア創出を体験する。
- (3) フェーズ(3) 自己アピールを考える。
- (4) フェーズ(4) 面接対応の練習。

受講した学生アンケート結果から、自分で考える力やコミュニケーション力が高まったとの学生の自己評価が確認できた。また、実際の就職活動においてエントリーシートや面接対策にも効果があったことが確認できた。

謝 辞

H22年度後期から、阿南高専の企業人技術者活用プログラムの活動として、情報処理関連会社での技術者経験を活かして、阿南高専の実験・演習の改善に取り組ませていただいた。そんな中で、阿南高専制御情報工学科の教員になる機会がありH23年度後期から教員として、自ら提案したキャリア支援授業改善提案に取り組むことができた。ご助言をいただいた諸先生方および、授業の実施にご協力いただいた先生方に、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 加澤恒雄：高等教育機関におけるキャリア教育の現状と課題, 工学教育, 60-1, pp.5-11, 2012
- 2) 岡 徹雄, 田邊裕治, 阿部和久, 岩部洋育, 原田修治, 石井 望, 丸山武男, 佐藤 孝, 今泉 洋, 西村伸也, 仙石正和, 大川秀雄：実践的工学キャリア教育への学外組織による教育支援の現状, 工学教育, 58-5, pp.67-72, 2010
- 3) 長谷川淳：高等専門学校におけるキャリア教育, 工学教育, 60-1, pp.18-22, 2012
- 4) 原野智哉, 吉村 洋, 釜野 勝, 福田耕治, 川畑成之：阿南高専におけるコーオペ教育の教育効果, 工学教育, 60-6, pp.93-98, 2012
- 5) 原野智哉, 西野精一, 大西良美, 宇野 浩, 松原一夫, 天野泰宏, 吉田 晋, 正木和夫：企業技術者等活用プログラムによる企業視点を導入した実験実習の実践とその高度化, 高専教育論文集, 36, pp.43-48, 2013
- 6) 吉田 晋, 福田耕治：グループワークを活用したキャリア支援授業の検討, 平成24年度全学FD大学教育カンファレンス in 徳島, pp.82-83, 2012
- 7) 経済産業省：about社会人基礎力, Webページ, <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/about.htm>, 参照日：2013-12-23

.....

著 者 紹 介

吉 田 晋

1983年 阿南工業高等専門学校電気工学科卒業, 2000年 徳島大学大学院工学研究科システム工学専攻博士後期課程修了, 博士(工学), 2011年 阿南工業高等専門学校 准教授, 日本工学教育協会, 計測自動制御学会, 農業施設学会に所属